

自動運転の社会実装加速に向けて

株式会社 ティアフォー



- 創業者 : 加藤真平
- 事業 : 自動運転レベル4の研究開発とサービス提供
- 設立 : 2015年12月
- 従業員数 : 約400人
- 所在地 : 東京（本社）、名古屋
米国サンタクララ、中国上海
- 資金調達 : 381億円（エクイティ） + 50億円（デット） + 約250億円（政府補助金）

株主構成



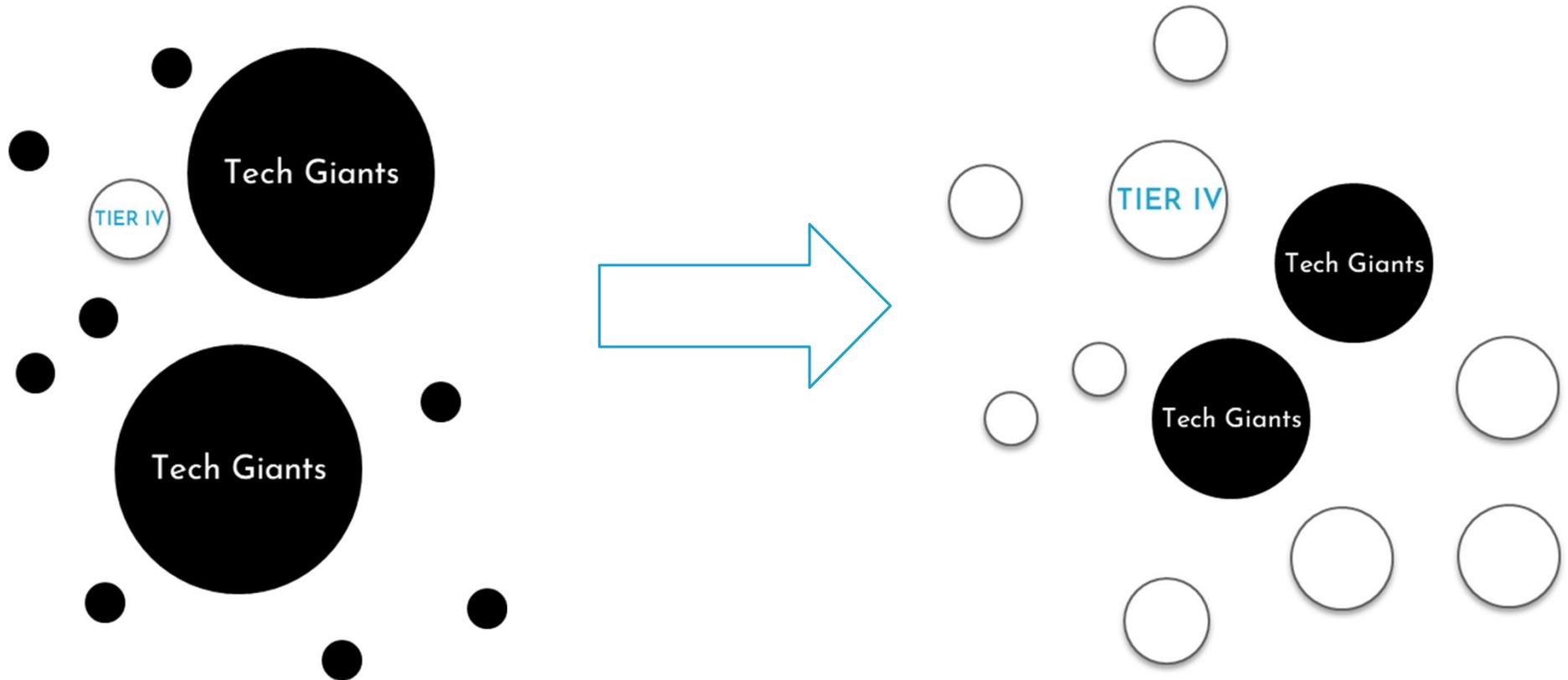
WORLD
ECONOMIC
FORUM

Unicorn Community

オープンソースによるゲームチェンジ^{TIER IV}

“If you want to go fast, go alone. If you want to go far, go together.”

オープンソースソフトウェア (Autoware) によって共創する仲間を増やしながらか自動運転市場全体を拡大していく

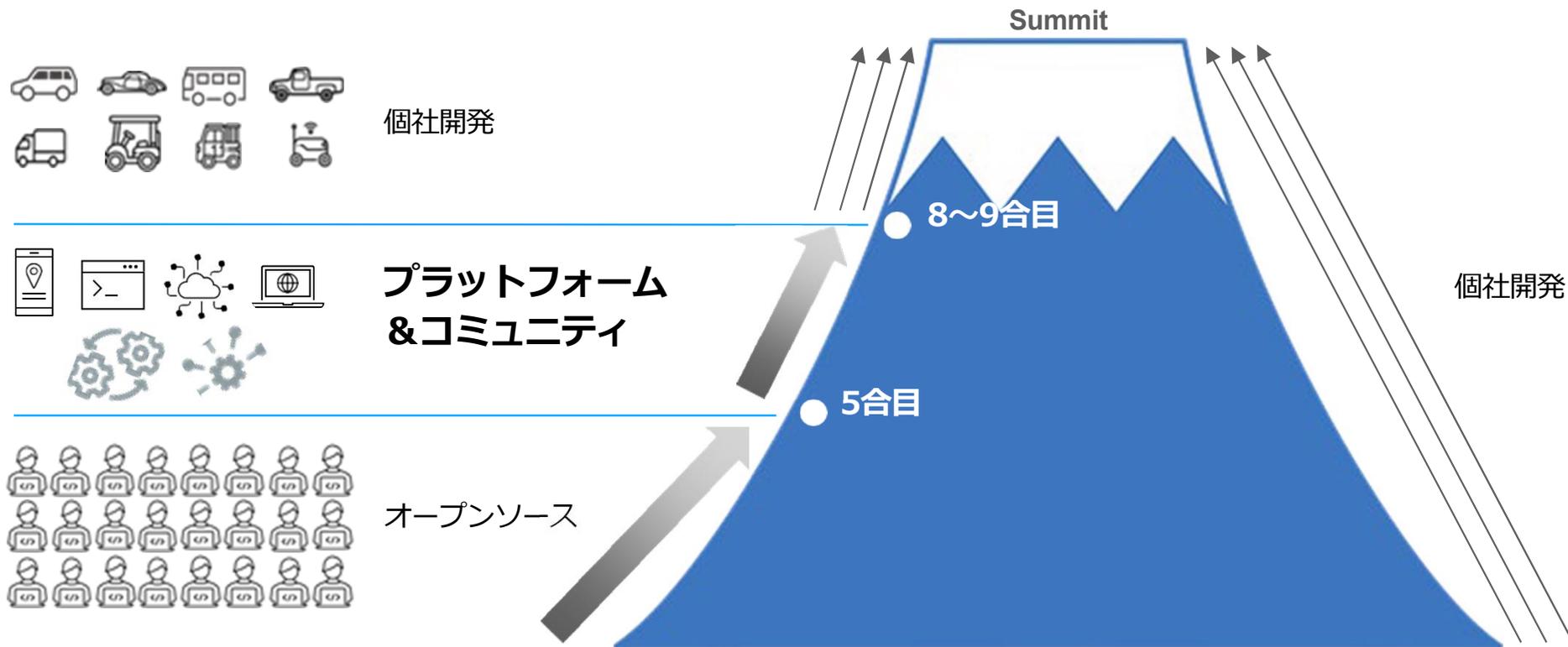


プラットフォーム&コミュニティの重要性 TIER IV

“より早く・安く自動運転システムを開発・運用したい”顧客ニーズに応えるべく、オープンソースを活用した自社プロダクトであるソフトウェアプラットフォームを提供することで、顧客価値・社会実装を実現していく

TIER IV

Traditional Automotive

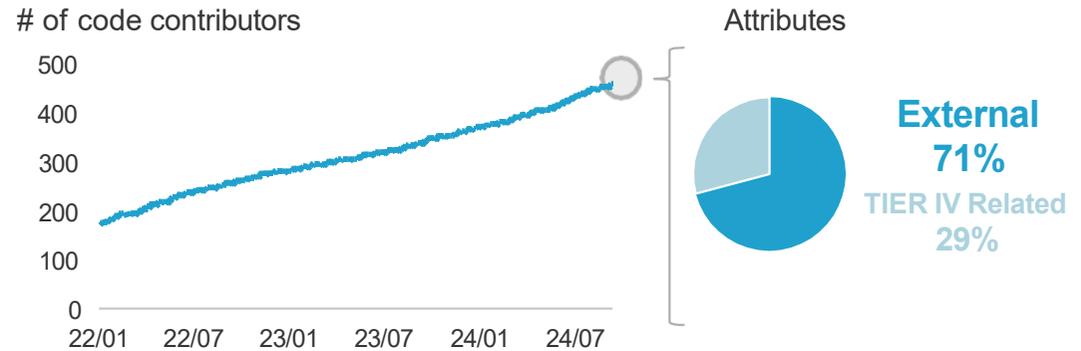


国産オープンソースソフトウェア「Autoware」の普及状況 TIER IV

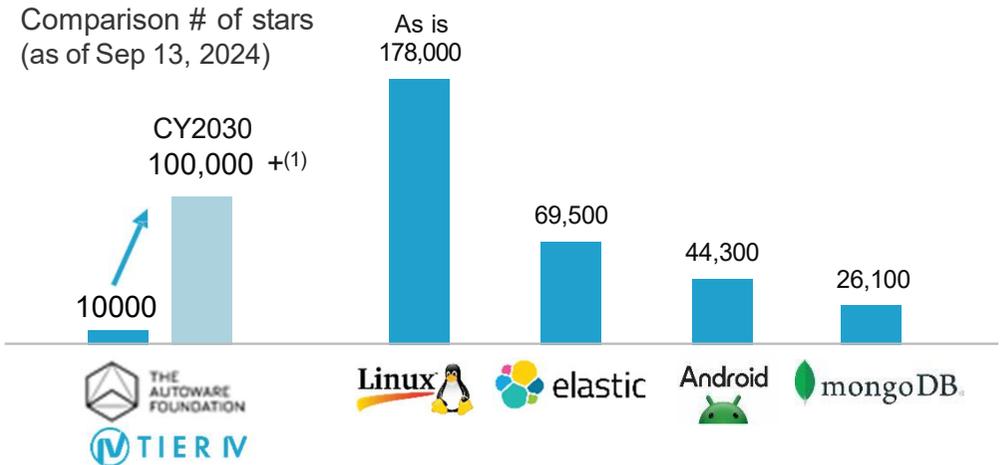
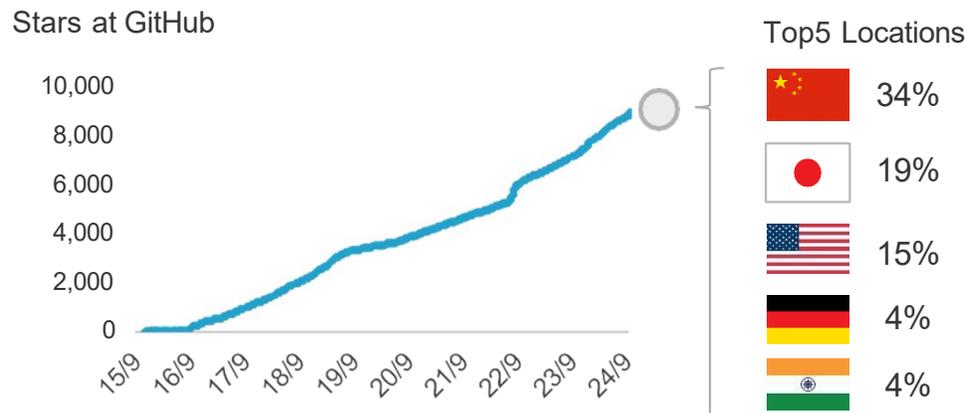
Members of the Autoware Foundation



Gaining more external contribution



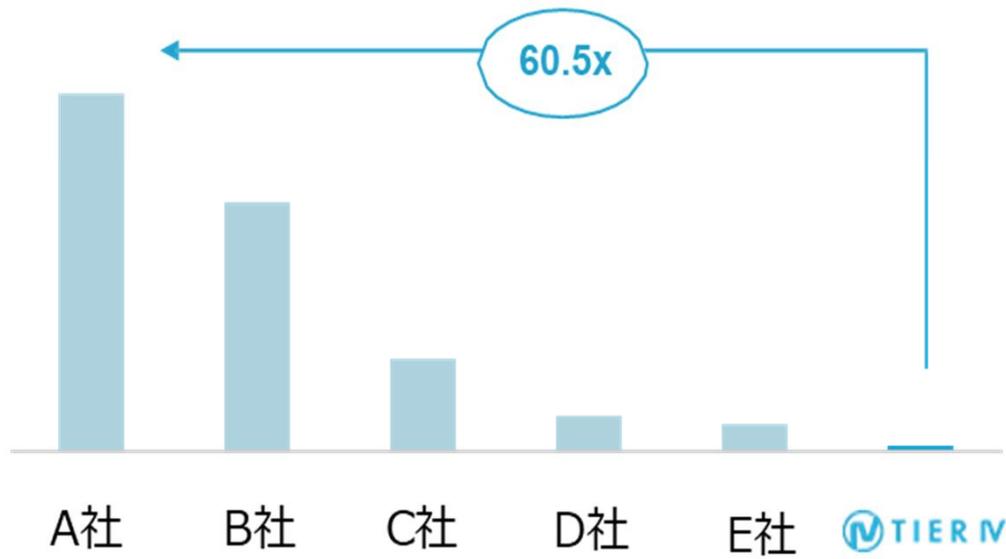
Growing # of stars



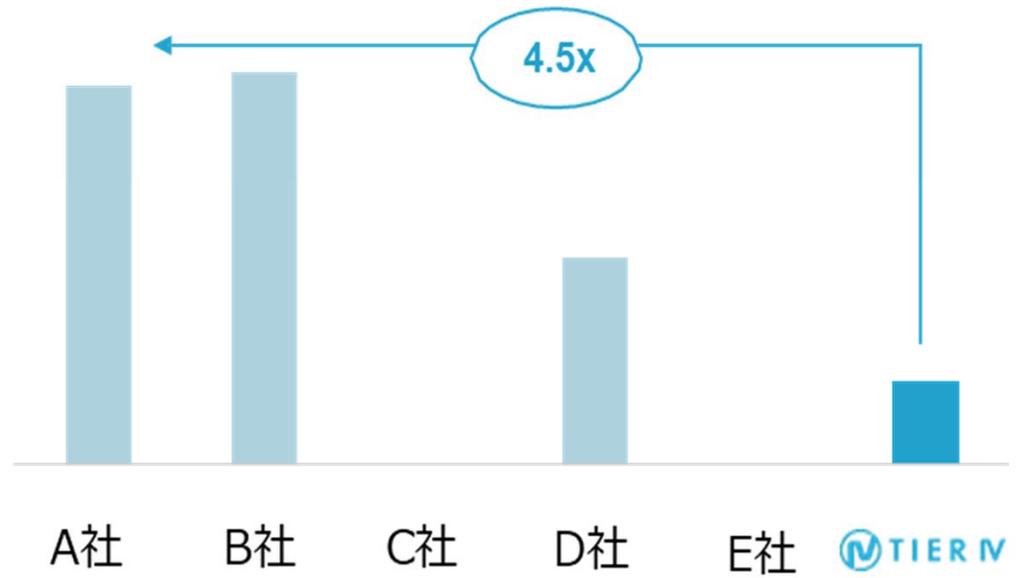
Notes:
1. Released on June 8, 2023

オープンソースソフトウェアの投資対効果 TIER IV

合計資金調達額



年間売上



Rev/Fundraising

0.6%

0.9%

0.0%

3.6%

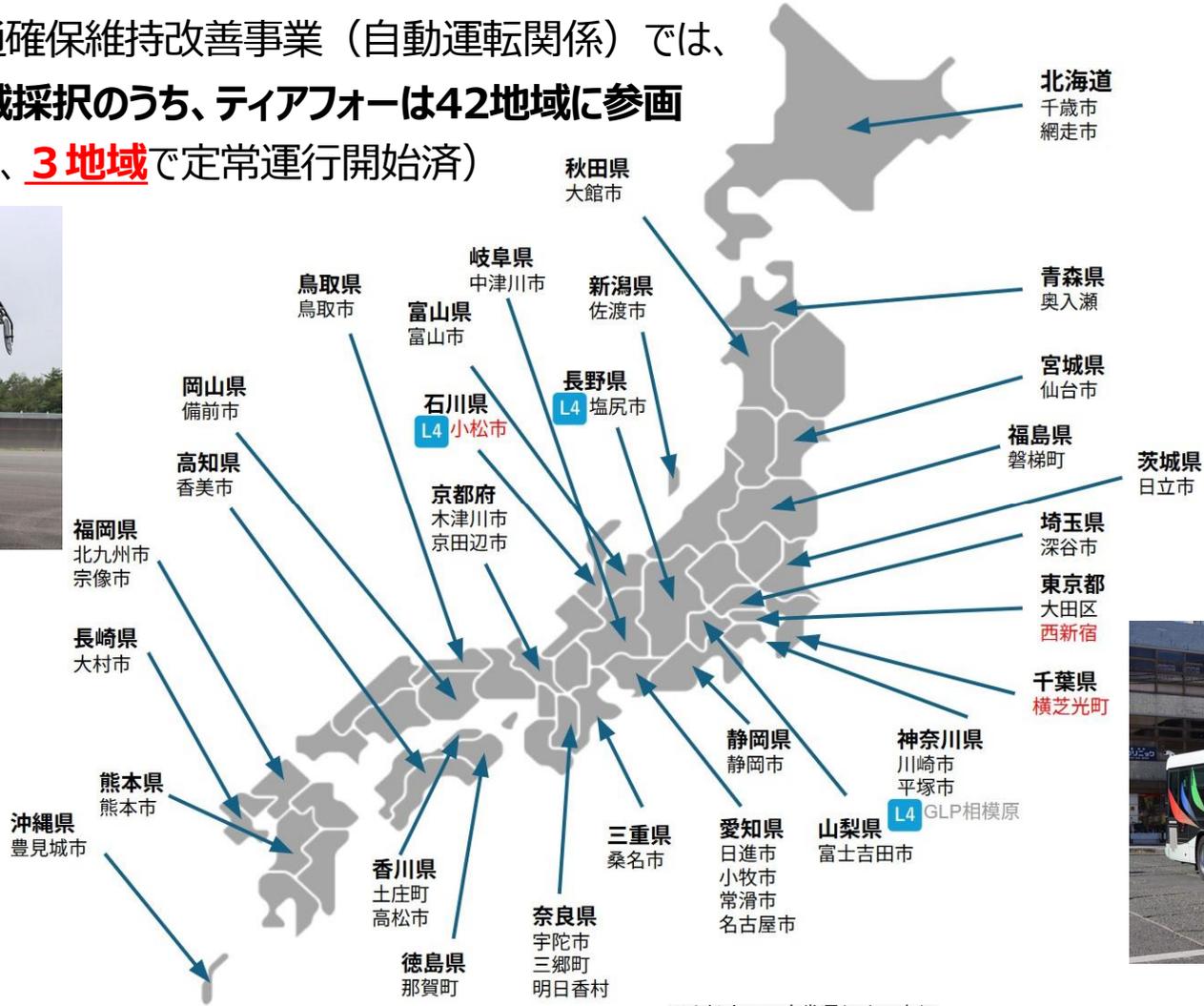
N/A

8.4%

Source: Crunchbase, Company Releases, NHTSA

国内での自動運転レベル4の社会実装

国土交通省地域公共交通確保維持改善事業（自動運転関係）では、
2024年度は全国99地域採択のうち、ティアフォーは42地域に参画
（うち3地域で L4 認可、3地域で定常運行開始済）

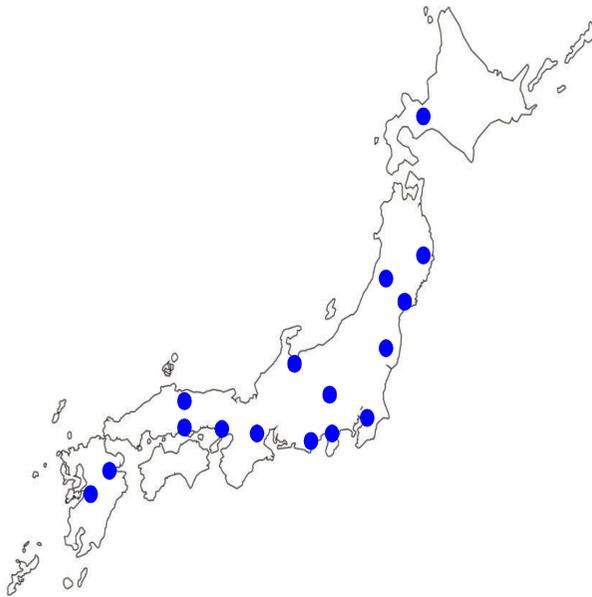


※小松市での定常運行はL2走行

先行実装地域の「面的展開」

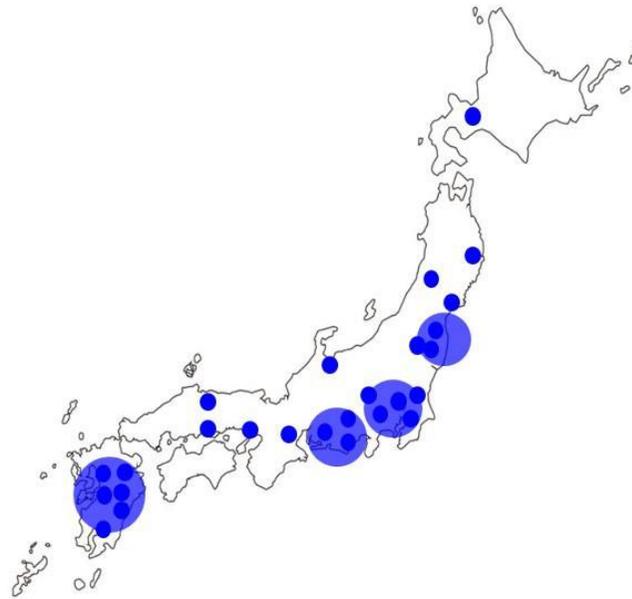
短期（～2025年度）

- 案件をボトムアップで積上げ（“点”）
- 国のロードマップ50箇所の達成



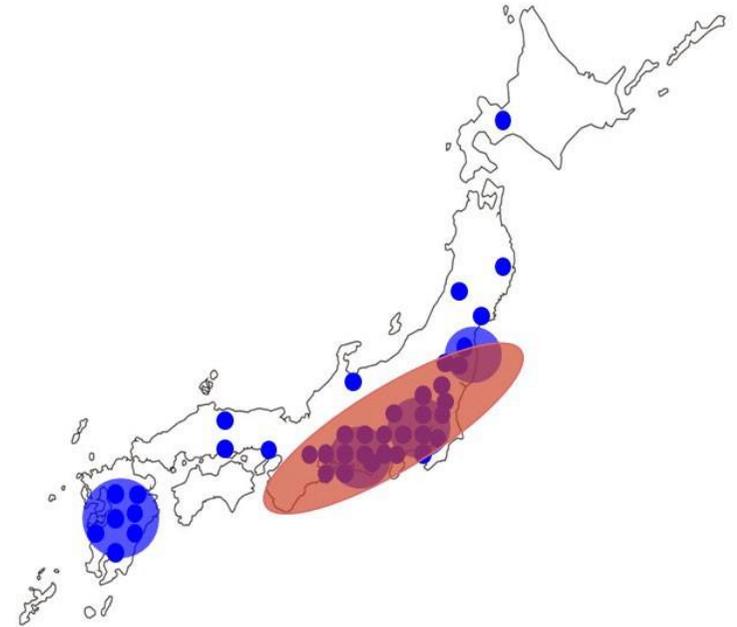
中期（～2027年度）

- 主要地域交通事業者と連携し拡大（“線”）
- 国のロードマップ100箇所の達成



長期（～2030年度）

- 東京/名古屋間中心に面で拡大（“面”）
- 本格普及に向け500箇所以上を目指す



量産効果によるコスト低減の可能性

1台あたりの導入コスト

個別地域対応（現状）

集約的調達・運用

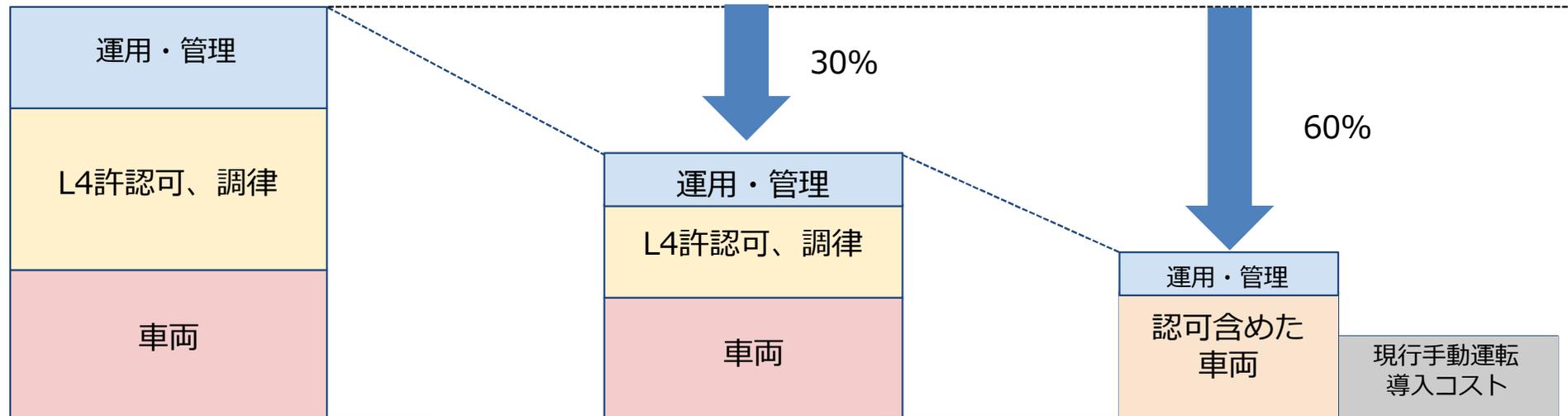
広域的調達・運用

拠点あたり
台数

1,2台程度

10台以上

200台以上



地域ごとのカスタマイズが発生

一定の定型化、集約化
によるコスト減

車両の量産化によるコスト減

（注）数値は概算のイメージ

自動運転の社会実装加速に向けたご提案

- 各種手続きのワンストップ体制構築

- 道路運送車両法、道路交通法、道路運送法などの相談や手続きの簡素化・迅速化の観点で各省庁や自治体横断のワンストップ体制を構築してはどうか。

- 自動運転移動サービスのパッケージ化

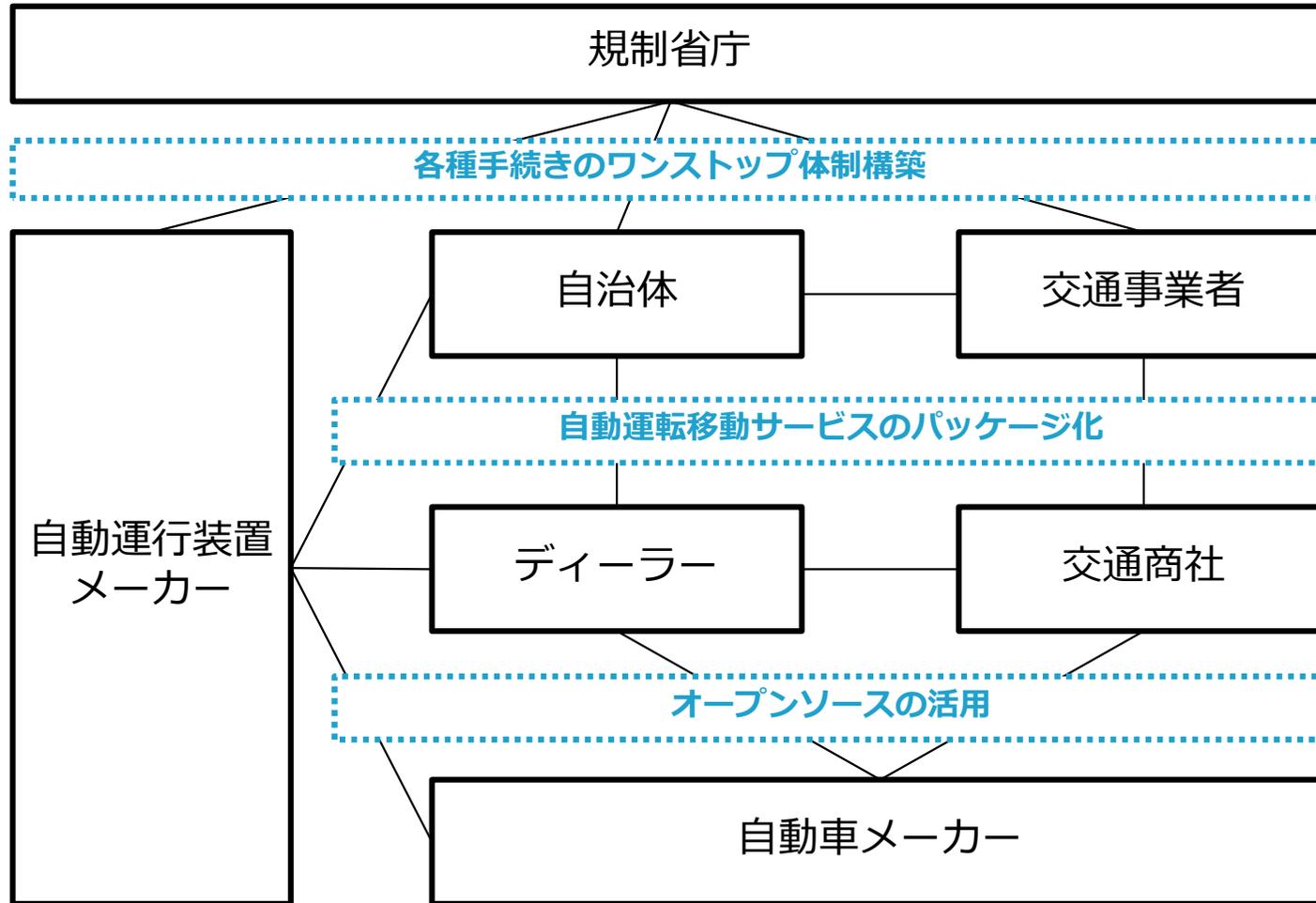
- 共通仕様による面的展開の加速：実装地域の迅速な横展開のためには、走行環境や車両サイズなどの仕様を最大限共通化し、時間のかかる個別調整の最小化が不可欠。補助金の設計においても、先行地域の状況を踏まえた要求仕様を各自治体で共有すると良いのではないか。

- 共同調達等による導入台数の拡大：量産効果を通じた導入コストの低廉化の観点では2030年1万台程度の普及目標が必要。導入コストを低廉化、運用コストを平準化する観点で、政府での一括した共同調達を通じたリースなども活用してはどうか。

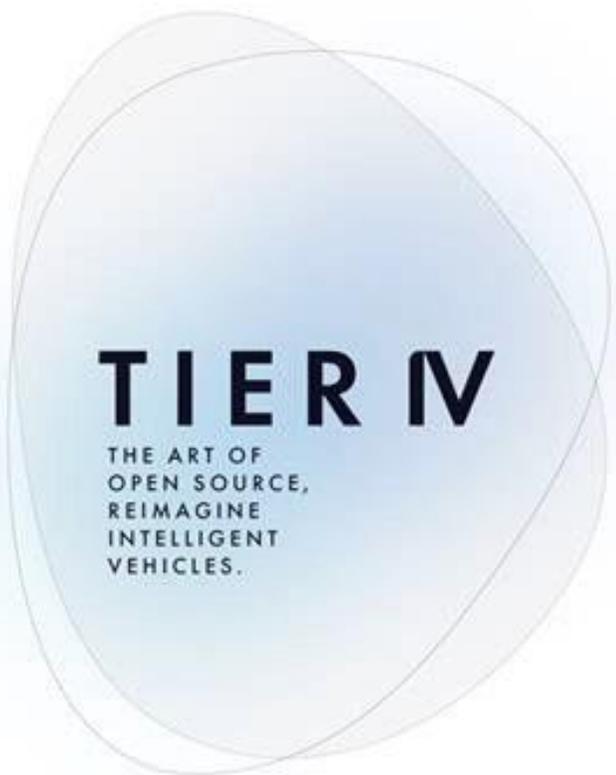
- オープンソースの活用

- 自動運転システム、車両の開発・運用には多大なコストが発生。全国各地で公共交通として広く活用可能な低廉なコストを実現するためにはオープンソースの活用が有効。デジタル公共財の要に。

自動運転の社会実装加速に向けたご提案



TIER IV



TIER IV

THE ART OF
OPEN SOURCE,
REIMAGINE
INTELLIGENT
VEHICLES.

THANKS !